

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	神埼市立千代田西部小学校		
1 前年度 評価結果の概要	・全職員による研究授業、事後の研究協議会を行い、校内研究を核とした「わかる」「できる」を実感できる授業づくりが着実に進んでいる。しかしながら、学力状況調査などからは、その成果を実感するまでには至っていない。今後も徹底した基礎基本の習得と家庭学習の充実に注力し、学力向上を目指す必要がある。 ・落ち着いた生活態度や学習環境の改善が図られ、高学年を中心に児童自らの規範意識が醸成されつつある。それに伴い、高学年をモデルとした下学年への継承を教職員が意図的にを行い、更なる自立をうながす。		
2 学校教育目標	「豊かな心をもち 個性に富み 逞しく生きる」児童の育成 ～自分を愛し、友だちを愛し、学校・地域を愛する西部小の子～		
3 本年度の重点目標	・校内研究を核とした、児童同士がつながり学び合う授業づくりを推進し、学力向上を図る。 ・各行事等において、教師のコーディネートによる児童を中心とした主体的な運営の継続と継承を推進する。 ・教職員の共通理解、共通実践に基づく、統一感のある指導体制の維持し、強化する。 ・一人一台端末（児童用タブレット）の効果的な活用を推進し、家庭学習の充実を図る。		

重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				
(1)共通評価項目										主な担当者
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示した【共通実践】の成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間で【共通実践】を共有する。 ・授業づくりのステップ1・2・3を活用し自己評価を行い授業改善を図る。	A	・学力向上対策シートに示した【共通実践】を意識した授業作りに取り組んできたことで【成果指標】を上回る達成率であった。	A	・アンケートで「積極的に研修会等に参加し、実践的な指導力の向上に努めている」教職員が100%であった。研修会や日々の授業の自己評価により、授業改善、工夫ができた教職員が増え、アンケート結果でも「とてもあてはまる」と回答した割合が前回より高くなった。	A	・数値目標の達成度から先生方の意識の高さが感じられる。 ・全職員の日々の授業改善と共通実践が、児童の学力向上につながっていると思う。	〈学び部〉 ・学力向上コーディネーター
	○陰山メソッドによる徹底反復学習による基礎的基本的学習の定着	○百ます計算のひき算で学年目標達成率80%以上 ○当該学年の漢字習得率80%以上	・週3回の陰山メソッドによるスキルタイムの実施。 ・家庭学習でも計算の反復練習に取り組む。 ・スキル参観を行い、教職員間での共通理解と児童の意欲向上を図る。	B	・陰山メソッドによるスキルタイムは、週3回、学校全体で取り組むことができている。スキル参観を行い、教職員間での共通理解を図ることができている。 ・月1回の一斉計測から計算スピードの向上も見られるが、ひき算で学年目標達成率80%には達していない。 ・1学期の漢字習得率は80%未満の学年もあった。2学期までに当該学年での漢字の指導を済ませ、習熟を図る。	B	・2学期にペア学年でスキルタイムの相互参観を行ったことで、児童の意欲が高まった。全職員が共通理解をし、全クラスが同じ進め方でスキルタイムを実践したことで成果を上げることができた。 ・月1回の計測結果から、どの学級もタイムの向上が見られているが、ひき算での学年目標達成率は80%には達していない。 ・2学期末までにどの学年も当該学年での漢字指導を終え、習熟を図っている。2学期の漢字習得率は、どの学年も80%以上であった。	A	・先生方が共通理解、共通実践していることで、児童の意欲向上につながっていると感じる。 ・スキルタイム参観や西部子学習発表会などを参観し、集中して取り組む姿がすばらしい。継続することの大切さを実感している。	〈学び部〉
	○「わかる」「できる」を実感できる授業づくりの推進	○アンケートにて「授業で学習したことがわかる」と回答した児童80%以上 ○算数科での単元テスト、知識・技能の観点についての得点率80%以上 ○家庭での学習時間において学年目標達成率80%以上	・全員研究授業による実践の共有化 ・授業と運動した家庭学習の充実を図る。	B	・アンケートで「授業で学習したことがわかる」と回答した児童93.5%であった。 ・1学期の算数科の単元テスト「知識・技能」の観点において、全学年80%以上の得点率であった。2学期は「思考・判断」の観点においても得点率80%以上を目指す。 ・「家庭ががんばろう週間」の取り組み状況は、どの学年も平日は目標達成率80%以上だったが、土日の達成率は80%未満の学年が多かった。	A	・アンケートで「授業で学習したことがわかる」と回答した児童は93.5%であった。1学期に引き続き高い数値であった。 ・2学期の算数科の単元テスト「知識・技能」の観点において、全学年80%以上の得点率であった。中間発表で加えた「思考・判断・表現」の観点については80%未満の学年が多く、日々の授業において力を入れていく必要がある。 ・「家庭学習ががんばろう週間」の取り組み状況は、11月ほどの学年も平日、土日ともに概ね80%を達成した。家庭学習の取り組み方を指導したり、個別に声かけを行ったりした成果だと考える。	A	・数年前から大変向上していると思う。長い間、地道に取り組んできた様々な取組が花開いていると感じる。	〈学び部〉 ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権に関するアンケートにて肯定的な回答をした児童85%以上 ○ふれあい道徳の実施率100%	・平和集会及び人権集会の実施 ・児童会活動を主体とした活動の推進 ・児童アンケートの実施 ・道徳の公開授業（ふれあい道徳）の実施	B	・道徳の公開授業や平和集会を実施した。平和集会の感想には、「戦争は二度と起こってほしくない」や「平和をつくるためにいじめをなくクラスの友達と仲良くなりたい」等の記述があった。 ・人権集会を12月に実施する予定。	A	・人権に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童97.6%。 ・ふれあい道徳の実施率100%。 ・人権集会を12月に実施した。感謝の会も同時に行い、地域の方に直接感謝の気持ちを伝えることができた。	A	・クリーン作戦や地区懇談会など、地域の行事にも積極的に参加しており、心の教育も充実していると感じた。	〈心づくり部〉 ・人権・同和担当 ・道徳教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○アンケートにていじめ防止・対応について、組織的な対応ができていると回答した教員90%以上以上	・毎月心のアンケートまたは、いじめアンケートを実施 ・アンケートと運動した担任や管理職及びSC等と連携した児童との関りの推進 ・教育相談全体会を月に一度実施 ・ケース会議（随時）	A	・毎月の教育相談全体会や心のアンケートで児童の実態把握と全職員での対応の共通理解を図った。 ・外部講師によるいじめ防止授業を実施した。 ・クラスの実態に合わせてSCやSSWによる授業参観や個別対応を行った。 ・必要に応じてケース会議を実施し、職員で児童対応の共通理解を図った。	A	・アンケートにおいて、いじめ防止・対応について、組織的な対応ができていると回答した教員100%。 ・心のアンケートや「Q-Uテスト」、教育相談全体会を実施し、必要に応じケース会議を行った。 ・クラスの実態に合わせてSCやSSWによる授業参観や個別対応を継続して行うことができた。 ・必要に応じてケース会議を行い、全職員で児童対応の共通理解を図り支援を行った。	A	・いじめについてはアンケートの活用など、丁寧に指導されており、早期発見、早期対応に努めていることがうかがえる。	〈心づくり部〉 ・教育相談担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・学習や学校行事等において、個々の目標をもたせ、振り返りをもとに次の活動への意欲をもたせる。 ・キャリアパスポートの活用	A	・学期や行事ごとにキャリアパスポートに目標や頑張りたいこと、取り組みの方法、それに対する振り返り等を書かせ、次の活動への意欲をもたせている。 ・児童のアンケートでは、「先生はあなたがやりたいことを励ましてくれたり応援してくれたりとくれる」と回答した児童94%、「自分の目標をもって学校生活を送ることができている」と回答した児童95.8%であった。	A	・アンケートにおいて、「先生はあなたがやりたことを励ましてくれたり応援してくれたりとくれる」と回答した児童94.5%。 ・アンケートにおいて、「自分の目標をもって学校生活を送っている」と回答した児童94%。 ・キャリアパスポートを活用し、学期や行事ごとに頑張りたいこと、取組の方法、それに対する振り返り等を書かせた。次年度への意欲をもたせることができた。	A	・先生方も児童も学校全体が落ち着いたおり、活気に満ちている。丁寧に育ててもらっていると感じている。	〈心づくり部〉
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0（ゼロ）を目指す ○怪我等による保健室来室者5%減 ○自転車のヘルメット着用率100% ○防犯ブザーの所持率100%	・登下校の合言葉を作成したり、地区児童会、登校班長会を実施したりして、児童の安全意識の向上を図る。 ・保健だよりを発行したり、各学級で正しい運動場での遊び方を指導したりして、怪等の予防を呼びかける。 ・毎月、ヘルメット着用や防犯ブザーの所持状況を調査する。 ・食に関するアンケートを行うことで、食に関する自己意識の振り返りを行ったり、生活改善の機会を設けたりする。 ・給食委員会を中心に、給食集会や給食残菜0（ゼロ）週間を設定することで、児童の食への関心の向上を図る。	A	・現段階で、児童生徒の交通事故は発生していない。登下校時の交通安全について、地区児童会等を通して更なる指導を徹底していく。 ・怪我等による保健室来室者は、目標を上回る7%減となった。引き続き、安全に配慮した運動場の利用や生活規律など指導を徹底していく。 ・1学期の児童のヘルメット着用率は、98.7%、防犯ブザーの所持率は、95.2%であった。学級でも再度指導を行い、100%に近づけるように努める。	A	・けが等による保健室来室者は、数年で大幅減（R元年より3分の1へ減少）し、さらに昨年より5%減の目標を達成した。今後も引き続き安全面への啓発を行い、来室数の現状維持を目指していく。 ・昨年度作成した登下校の合言葉の徹底や、地区児童会等での交通安全に対する児童の意識向上に努め、児童生徒の交通事故ゼロを達成することができた。 ・児童のヘルメット着用率が100%となった。指導を継続し、維持していきたい。 ・防犯ブザーの所持率は、97%と微増であった。引き続き指導を徹底し、100%を目指していきたい。	A	・安全に対する意識の向上が、職員だけでなく児童にも浸透していると思う。 ・災害がいつ起きてもおかしくない環境の中、防災教育や訓練をもっと導入してもよいと考える。	〈体づくり部〉 ・安全指導担当 ・養護教諭 ・給食担当
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●食に関するアンケートにて、「朝ご飯を毎日食べている」「苦手なものでも食べようとしている」と回答した児童80%以上	・朝ご飯を毎日食べている児童は97%、苦手なものでも食べようとしていると回答した児童は85%であった。 ・1学期の給食残菜率は1.4%と、減少傾向にあった昨年度1学期の2.1%を更に下回った。	A	・朝ご飯を毎日食べている児童は97%、苦手なものでも食べようとしていると回答した児童は85%であった。 ・1学期の給食残菜率は1.4%と、減少傾向にあった昨年度1学期の2.1%を更に下回った。	A	・食に関するアンケート結果において、朝食を毎日食べている児童は、98%、苦手なものでも食べようとしていると回答した児童は87%と、どちらも前回より上回っている。 ・給食残菜率は、残菜0週間などの取り組みで意識も高まり、昨年度の1.6%から1.5%と減少した。	A	・各家庭での食に対する意識が向上していることは評価できる。 ・学校給食はありがたい。残債ゼロの取組にも力を入れており、今後も継続してほしい。	〈体づくり部〉
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○職員全体の時間外在校時間平均35時間以下	・定時退勤日の設定 ・共通理解、共通実践を可能にする掲示板的活用 ・会議資料等に所要時間の予定時刻を明記 ・出退勤記録の時間外在校等時間が30時間を超えると黄色、40時間を超えると赤色に変わり、視覚的に時間削減への意識を促す。	C	・定時退勤日は、職員が意識して早めの帰宅を心掛けていた。 ・連絡掲示板や共有フォルダなど、効率的なPCの活用は行っている。 ・時間外在校時間平均35時間は7月のみ達成できたが、1学期の平均は45時間を上回り、目標を達成できた職員は5名のみであった。ショート校時の実施、会議時間の縮減等を行い、職員の業務時間の改善を図る必要がある。	B	・掲示版や連絡会の活用で、会議時間を大幅に短縮することができている。 ・出退勤記録の時間外在校等時間の色分けを行ったことで、職員の時間削減への意識につながっている。行事が立て込む10月は平均時間が45時間を超えてしまったが、2学期の平均は33時間であり、目標値を達成した。勤務管理システムの導入により、出退勤の自己管理が進んだことで、さらに時間削減を意識する職員が増えている。	B	・業務効率化と時間外在校等時間の推進については、改善傾向にあると思うが、家庭での時間の充実も視野に入れ、配慮してほしいと考える。 ・先生方の努力だけでなく、人員増が必要な課題でもある。	教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する理解が深まったと回答した教員90%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・情報共有の場を作り、個々に応じた支援の在り方を確認し、日々の指導や支援に生かす。	B	・特別支援教育に関する研修会を全職員に向けに実施し、共通理解を図った。 ・より支援が必要な児童に対して、巡回相談を利用したり、支援会議を開いたりして、関係のある職員で支援の方法を考え、全職員での協力体制を周知した。	A	・特別支援教育に関する理解が深まったと回答した教員は、100%で全員だった。 ・支援学級の授業を公開し、学習中での支援の仕方を提案したり、支援が必要な子に必要な支援がいけるような体制を整えたりして、全職員で共通理解を図り、実践できるように努めた。	A	・特別支援教育が充実し、児童の表情が明るい。専門性や意識の向上については具体的に分かりかねるが、児童を大切にしている様子はうかがえる。 ・さらに、友達との輪を増やしてほしい。	特別支援教育主任 特別支援教育コーディネーター 特別支援教室担任
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○児童が自立から自走する集団へ向かうための教育の推進	○きまりやルールを守り、自分で考えて行動できる児童の育成	○アンケートにて「きまりやルールを守るができる」と回答した児童80%以上 ○協力・助け合いながら楽しく活動に取り組む児童の割合80%以上	・教員が学習面、生活面のきまりやルールを共有し、指導に関する共通実践の徹底と継続を図る。 ・学校行事等で、教師が児童の役割を意図的にコーディネートする。	B	・学習の始めと終わりのあいさつができている児童97%、学習時間と休み時間のけじめをつけている児童94%など学習面でのルールを守っている児童の目標値は超えていた。また、元気な声であいさつできている児童91%、友達と仲良く過ごしている児童97%など生活面でのきまりを守っている児童の目標値は超えていた。しかし、担任の見取りでは、まだ十分ではない部分が多く児童の評価とのずれを感じる。今後も継続した取組が必要である。 ・2学期は学校行事が多く、児童の活躍の場をさらに増やし、自己有用感を高めていく。	A	・学習の始めと終わりのあいさつ、学習時間と休み時間のけじめなど学習面でのルールを守っている児童は95%以上を維持できている。 ・元気な声であいさつしている児童は94%、友達と仲良く過ごす児童は98%、友達と協力しながら活動できた児童97%など生活面でのきまりを守っている児童は目標値を高い水準で超えている。褒めほめカードの活用など、新たな取組の成果であると考えられる。 ・高学年児童が自ら考え、行事の企画、運営を行う伝統が引き継がれており、今後も継続していくことで、自己有用感の高まりも見られた。	A	・数年前から年を追うごとに向上している。中学生になっても千代田西部小学校出身の児童の活躍が多く見られる。 ・地域住民として今後も子供たちを見守っていきたい。	教頭、各担当
○教職員の資質向上、授業力向上	○指導力・実践力の向上	○教職員の資質能力の向上に資する職員研修の実施 ○授業力が向上したと感じている教員90%以上	・授業研究会を中心とした校内研究の充実 ・服務、学習指導、特別支援教育に関する研修の実施	A	・計画した職員研修は確実に実施できた。校内研究を中心に、学習指導について研修を深めている職員は93%であり、日々の授業改善、工夫に努めている割合も100%であった。 ・校内研究はもちろん、服務、学力向上、特別支援教育など資質向上に関わる研修を計画的に行った。	A	・計画していた教職員研修（後半）もすべて実施できた。服務に関する研修「ゼロの日」についても月1回の職員会議で確実に実施しており、職員全体が不祥事に関して高い意識で臨んでいることが分かる。	A	・神埼市教育委員会教育長との面談でも、千代田西部小学校の職員の質の高さは確認しており、実感している。 ・活力ある学校づくりができているのは、まさに先生方の力だと思う。	・教頭、教務、各担当

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	令和6年度の重点目標については、概ね達成できたと考える。次年度に向かうにあたり、これまでの取組を継続しつつ、次の視点をもって取り組んでいきたい。 ・校内研究を核とした、児童同士がつながり学び合う授業改善の継続、及び自己の学びを視点をもって振り返り表出できる児童の育成の推進 ・支援を要する児童への対応や指導体制の確立、及び特別支援教育の充実 ・自己の持ち味を生かし、強みを生かした学び続ける教師集団の体制づくり ・一人一台端末（児童用タブレット）の効果的な活用の推進
----------------	---